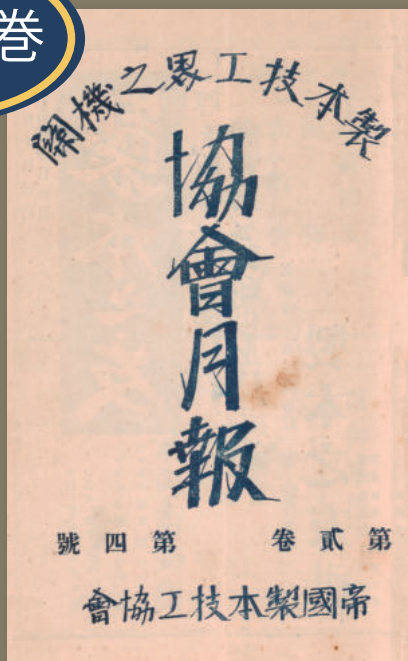


近代日本製本関係雑誌集成—大正・昭和初期編

3~7卷

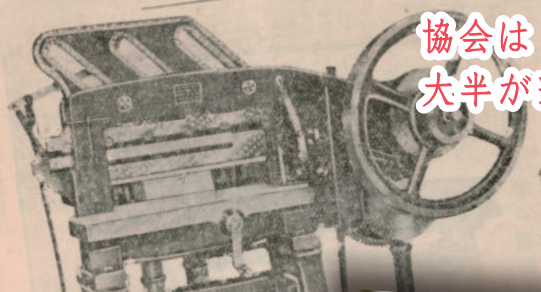


第三卷第七號

目次

いろは労働歌	佐久間重太郎
業界一般	生
粗悪製本	佐久間重太郎
新生面の打開	生
書籍の装幀美術に就て	佐久間重太郎
労働者の集団精神に就て	生
業界工場の主の應待機	山縣純次郎
前記三時問題に就て	山縣純次郎
藝術家の死	三浦武
製本技術工場の観察	吉野天童
微小さき者の叫び	青葉草人
男は男らしく女は女らしく	K S
同本と技術と工場主	同
技工協会へ	A
芝山内生	女
吸取紙糊	芝山内生

暑中御見舞申上候
一大驚異
斷截機の威力



協会は「穏健」な団体であるので、『協会月報』の記事も大半が当り障りのない修養的な内容であり、率直なところ『時報』のような読みごたえはない。しかし経営者の集まりである同業組合の機関誌『組合月報』などではわからない、業界の内部事情を垣間見ることができる。

東京市京橋區月島西仲通二ノ五
築間機械製作所
電話東京二一七二六番

四尺	三三	二二	一一	一
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三
八三	八三	八三	八三	八三

◆製本業界の福音◆
我技工協会は今回製本業の熱心家白石製本所主白石淺右衛門氏が多年苦心

研究の結果發明せられたる實用新案特許出願中の金下研磨機を廣く同業者諸君に紹介するの光榮を得ました。

△白石淺
が製本あるもの秘密裡に事ろ一般便益を計るる、誠意に機械を實費分讓することを得まし
神田區美
帝國製本
購求又は實目は特に本協會
は特に本協會

AUTOMATIC WIRE STITCHING & BINDING MACHINES

工本製
型號貳第貳
機機綴金針本製

1~2巻

日製本時報

第三卷第参號

本誌發刊之詳
凡之書物の必要ありと認むる限り製本の必要亦否可らず按ずるに本

内容目次
大正八年八月八日発行
大正八年八月八日発行
大正八年八月八日発行

日本製本時報社同人識



製本工昔がたり

今から三十年前の製本屋では、七五三の肴物に
三尺帯の緋名附の職人が、巾を利かした時代だ。そ

みといふ奴で、例の緋名職工の二三が徒黨して工場
へ強請り込むので、大なり小なりかすらさず居ない



時報社は、山本と草人堂主人・赤坂桂棹(七郎)が中心となって運営された。

時報社は製本技術の高度化を追求し、そこから業界全体の
発展と地位向上を目指そうとする人たちの集まりである

流行出版物装幀製本批評

岡田紫雲

我革製本の装釘法を難す

△獨逸人は我日本の製本を見て日本は未だ我獨逸の敵ではないと!!!

東京製本同業組合員 伊藤伊太郎

製本と建築物とは趣に於て能く似寄つた處がある
製本に於ける紙表紙物又は假製本は、建築物のバラ

製本用語註釋

太田義明

「、クロスまたはクロスと云ふのは、英語のCross

から来た言語で製本専用の布地であります。素人
乗はよくクロスでなくアカスで製本して呉れなど



製本、覚醒、改造、使命

會田豊太郎

○大正八年度に於ける組長の希望

大正八年は五ヶ年間に跨りし世界的國際戦争も愈

々終局を告げて國民舉つて目出度く平和を迎へた初

年であつた、當時同業組合組長たりし山縣純次氏は

我が業界に於て最も古き歴史を有する青書懇話會の

主催なる飯田川岸富士見樓に於ける新年宴會の席

上に於て同會の顧問として左の如き感話があつた、

曰く本年は世界的戦争も平和となつて目出度き新春

りたいと思ふ、未と言ふ厭は牧者一人に依つて宜く
數百頭を統御し得るやうであるから我々工場主も其

止まなかつたのであります。